

NPO 法人はち設立趣旨

地方では、過疎化や高齢化がすすみ、山や里を守る人が少なくなり、手入れされない山が増えることで土砂災害などの増加にもつながっています。

一方、都市部では自然に触れる機会が少なく、山や里の現状を知らない人々が多くなっています。

そのような中で、都会に住む人々が具体的に自然と触れ合う「林業体験」や「里山・竹害を知る宿泊体験型講習会」などの活動を開催してきました。そして、林業体験や宿泊体験型講習を通じて自然に触れた時に、特に若い人が自分の内側に目を向け、自然環境のことを自分自身の問題として感じてくれました。

このような体験を通じ、自然環境の現状を社会の問題としてではなく、個人個人の問題として、より身近に感じてもらえるよう、今後より幅広い環境保護を観点とした活動を行いたいと考えております。

また環境映画の自主上映会の開催やマーケットの開催などを企画し、自然環境の現状を知らない人に、まずは関心を持ってもらう機会を作り、都会の人々と地方の人々がつながり合える場づくりを積極的に作っていきたくと考えています。

今回、法人として申請するに至ったのは任意団体として行ってきた活動を、より多くの人と継続的に推進していくこと。そのために他の地域の関連団体や行政の方とも連携を深めていく必要があること等の観点から、公的な組織として NPO 法人となるのが最良であると考えました。

また、当団体の活動が営利目的ではなく、多くの市民の方々に参画していただくことが不可欠であるという点から、特定非営利活動法人格を取得するのが最適であると考えました。そして、法人化することによって、組織を発展・確立することができ、地域社会に広く貢献できると考えてます。

上記内容が申請に対して製作いたしました趣旨書ですが、真意は実はもっと深く内在しております。

日常の暮らしの中で忙殺される、いわゆる会社員の方々と同じく、働きながら社会のことを考える余裕が持てない人たちの多さ。それは、ほぼ等しく社会問題に対しての無関心層と位置づけられる人たちでもあると思っています。

その人たちにも家庭があり、考えたいこともきつとあるだろうに、今の社会ではそれを奪うことで現状に至っていると考えています。その方たちに『どうしたらそういった時間や思考のきっかけを持ってもらえるのだろうか？』と考えたときに、このような事業を考えました。

それと同時に、市民活動の中で本気で考えていかないと取り返しのつかない時代に入ってきているとも考えています。

- 自然を破壊してまで作らねばならないという国策、企業優先の施設
- 大量生産、大量廃棄などをいつまでも繰り返し生み出し続ける経済活動
- 高齢者や低年齢層の中にある貧困問題
- 過疎化などによる社会生活の骨粗相症のようなコミュニティ
- 労働者の待遇の希薄化

そして何よりも憂っているのは、「未来を生きる人たちに希望を残せていけるのかどうか？」ということです。

それらの事を今一度、本気で考えて変えないといけない、止めないといけないという時代だと思っています。ユニバーサルデザインという言葉聞いた時に心からそれを願ったし、命を自ら絶つ子どもたちの増加に心から憂っています。

それらに目を背けることをやめて、文句を言い続けることもやめて、「我々のチカラで何ができるのか？」に取り組んでいく決意でこの団体を立ち上げました。

社会の変革の根底に必要なものは、【信頼し合える人間関係と修復可能なコミュニティ】であるということも学んできました。

人はひとりひとり違っていいということ。誰が優で誰が劣でもないということ。

それを知るためにわたしたちは、人の集まりと話ができる環境という事を考え始め、4つの事業の中にそれらを織り込んで団体の活動とすることで、10名の正会員が揃いました。